



2026 年 9 月 28 日

各 位

会社名 株式会社アクセル
代表者名 代表取締役会長兼社長 松浦一教
(コード:6730、東証スタンダード市場)
問合わせ先 執行役員 管理グループ 田中大輔
ゼネラルマネージャー
(TEL. 03-5298-1670)

第 2 四半期（中間期）業績予想及び通期業績予想並びに配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年9月28日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2026年5月11日に公表した業績予想及び配当予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 連結業績予想

2027 年 3 月期 第 2 四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 8,150	百万円 970	百万円 1,000	百万円 700	円 銭 64.99
今回発表予想（B）	9,650	1,330	1,350	1,020	94.66
増 減 額（B－A）	1,500	360	350	320	－
増 減 率（％）	18.4	37.1	35.0	45.7	－
（ご参考） 前期実績	7,635	1,148	1,227	858	79.04

2027 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 15,000	百万円 1,200	百万円 1,270	百万円 890	円 銭 82.63
今回発表予想（B）	20,400	2,290	2,350	1,700	157.67
増 減 額（B－A）	5,400	1,090	1,080	810	－
増 減 率（％）	36.0	90.8	85.0	91.0	－
（ご参考） 前期実績	14,656	1,664	1,792	1,230	113.71

(2) 個別業績予想

2027年3月期 第2四半期(中間期) 個別業績予想数値の修正(2026年4月1日～2026年9月30日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	8,000	930	670	62.21
今回発表予想(B)	9,520	1,270	990	91.87
増 減 額 (B - A)	1,520	340	320	-
増 減 率 (%)	19.0	36.6	47.8	-
(ご参考) 前期実績	7,416	1,115	809	74.54

2027年3月期 通期個別業績予想数値の修正(2026年4月1日～2027年3月31日)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,600	1,100	790	73.35
今回発表予想(B)	20,000	1,960	1,500	139.12
増 減 額 (B - A)	5,400	860	710	-
増 減 率 (%)	37.0	78.2	89.9	-
(ご参考) 前期実績	14,127	1,570	1,113	102.89

修正の理由

現在までの受注状況や顧客の需要動向を精査した結果、パチンコ・パチスロ機向けグラフィックスLSIの販売が約35万個の見通し(当初31万個の販売計画)となったことに加え、メモリモジュール等の製品も当初計画を上回る販売見通しとなりました。これは当初135万台と想定していた市場規模(パチンコ・パチスロ機の新台年間販売台数)が145万台に拡大する見通しとなったことに加え、メモリモジュールのリユース比率が当初見通しより低下し販売個数が増加する見通しとなったこと等によるものです。

また、生成AI需要の拡大に伴う世界的なメモリ価格の高騰によるメモリモジュール等の一部製品の製造原価の上昇を受け、製品の付加価値に応じた販売価格の適正化を順次進めております。この価格調整の結果、売上高は大幅な増収を見込んでおります。一方、売上総利益率は低下するものの、製品個別の売上総利益(粗利単価)については前回発表予想と同様の水準を確保できる見通しです。

以上の状況を鑑み、通期連結売上高は計画比36.0%増となる20,400百万円に修正いたします。売上総利益は売上高の増収に伴い計画比29.5%増の5,700百万円に見直しました。なお、売上総利益率は、グラフィックスLSIにおいて製品ミックスの改善が見込まれるものの、前述の販売価格の適正化等の影響を受け、計画比1.4ポイント低下の27.9%となる見通しです。

販売費及び一般管理費は計画比6.6%増の3,410百万円に見直しました。この主な要因は、次世代製品の開発費を新たに計上する見通しとなったことに加え、業績連動賞与の引当額が増加する見通しであることによるものです。

以上により、営業利益は2,290百万円(計画比90.8%増)、経常利益は2,350百万円(同85.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,700百万円(同91.0%増)にそれぞれ修正いたします。

2. 配当予想の修正

	年間配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
前 回 予 想	0 円	41 円	41 円
今 回 発 表 予 想	0 円	79 円	79 円
前 期 実 績	0 円	57 円	57 円

修正の理由

当社は株主還元方針として配当性向主義を採用しております。上記業績予想の修正に伴い、配当予想も修正いたしました。修正後の配当額で算定した連結配当性向は 50.1%となります。

（株主還元方針）

当社の株主還元方針は「株主の皆さまへの期間収益の還元」と「機動的な経営を可能にするための内部留保」の適正な水準を勘案し、株主の皆さまへの還元を最大化することです。本方針に基づき利益配当につきましては、当期純利益の 50%を配当額とすること（配当性向 50%）を原則としております。配当性向 50%で算定した配当額が前年配当額を下回る場合には、適正な内部留保を確保したうえで、従前の配当水準を考慮し配当額を検討いたします。なお、配当性向につきましては、連結決算の数値を用いて算定いたします。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上